

新入生の出身地マップ

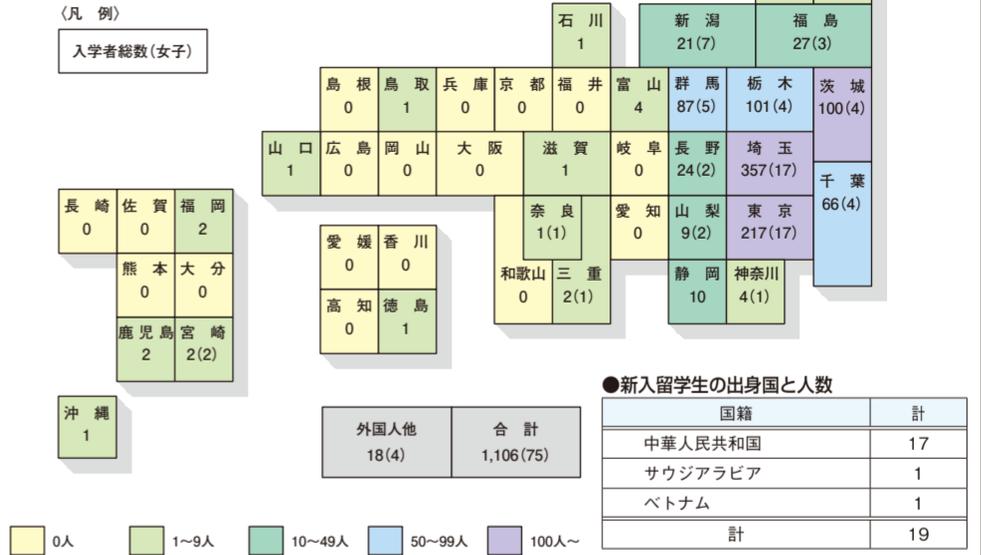
30都道府県から1,106名が入学

工学部の平成28年度都道府県別入学者数がまとまった。総入学者数は1,106名（入学定員は1,000名）。うち女子学生は75名である。都道府県別入学者数は、昨年に続き埼玉がトップで357名。次いで東京が217名、栃木101名、茨城100名、群馬87名がベスト5である。入学者は、全国30都道府県から集まっている。

※編入学生、および秋季入学者の数は含まない

（凡 例）

入学者総数(女子)



学生支援部長賞受賞者決定

3月11日、学生支援部長室にて、平成27年度の学生支援部長賞の表彰式が行われた。今回の受賞者は、団体としては、全日本学生フォーミュラ大会の省エネ部門で1位、総合で9位を獲得し

た本学「学生フォーミュラチーム」のほか、「モノ創りデザイン工房」と「野球部」。個人としては、学園祭実行委員会所属の林竜河君と、長尾健吾君となっている。

受賞者一覧

| 氏名又は団体名 | 申請内容 |
|-------------------------|--|
| 電気電子工学科 林 竜河 | 株式会社ぐるなび 学園祭グランプリ2015 企画賞 未来アーティスト賞1位 |
| 機械工学科 長尾 健吾 | 文部科学大臣杯2015MFJ全日本ロードレース選手権シリーズJ-GP2クラス年間ポイントランキング9位に入賞 |
| モノ創りデザイン工房 & 有志学生 | 東京デザインウィーク 2015 ASIA AWARDS学校作品展 学生賞入賞1作品、入選2作品 |
| 日本工業大学学生フォーミュラチーム および有志 | 第13回全日本学生フォーミュラ大会 省エネ1位 総合9位 |
| 硬式野球部 | 平成27年度東京新大学野球連盟 秋季リーグ戦3部優勝及び2部リーグ昇格 |



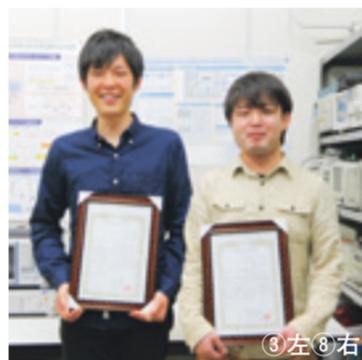
平成27年度 学会等における学生の活躍

平成27年度卒業生の卒業研究論文をはじめとして、本学学生の研究成果が高く評価され、各学会からの受賞報告が届いた。これらの受賞実績は受賞者個人やチーム、指導教員による努力の賜物であるとともに、本学が長年にわたって推進してきた実工学教育の成果でもある。

ここに掲載した受賞のほかにも、多くの学生が学会や各種競技イベントにおいて活躍している。一部の受賞内容に関しては、本学WEBサイトのTOPICSにも掲載しているので、参照していただきたい。

主な受賞者一覧

| 学科・専攻 | 受賞時学年 | 受賞者 | 学会名 | 受賞名・成績等 | 指導教員 | 授賞日 |
|----------------|-------|------------------------|----------------|--------------------------|-------|------|
| ① 創造システム工学科 | 4年 | 菅原知樹 | 表面技術協会 | 学術奨励講演賞 | 伴雅人 | 3/23 |
| ② 創造システム工学科 | 4年 | 車谷亮祐・斉田利継 宮田和也・横井俊平 | 日本機械学会 主催行事 | ロボットランサー競技「娯楽賞」 | 滝田謙介 | 3/27 |
| ③ 電気電子工学科 | 4年 | 設楽勇 | 電気学会 | 優秀論文発表賞 | 平栗健史 | 3/3 |
| ④ 機械システム工学専攻 | 前期1年 | 内山研二 | 日本機械学会 主催行事 | ロボットランサー競技 マイスターコース優勝 | 滝田謙介 | 3/27 |
| ⑤ 機械システム工学専攻 | 前期2年 | 藍立明 | 品質工学会 | 学生賞 | 二ノ宮進一 | 3/24 |
| ⑥ 電子情報メディア工学専攻 | 前期1年 | 針谷維佑 | 電子情報通信学会 | 学術奨励賞 | 神野健哉 | 3/17 |
| ⑦ 電子情報メディア工学専攻 | 前期1年 | 藤田実沙 | 信号処理学会 | 学生論文賞 | 木村貴幸 | 3/9 |
| ⑧ 電子情報メディア工学専攻 | 前期2年 | 森野善明 | 電気学会 | 優秀論文発表賞 | 平栗健史 | 3/3 |
| ⑨ 建築デザイン工学専攻 | 後期2年 | 武知亜耶 | 日本建築学会 | 若手優秀研究報告賞 | 波多野純 | 3/15 |



就職支援情報

短期決戦に向け、万全の体制でサポート

大学生の雇用動向はその年の経済状況に大きく依存してきた。リーマンショックで大きく低迷し、その後は非正規雇用の増加が社会問題となっているが、大卒者に対する求人意欲は年を追うごとに旺盛になっている。

一方、この売り手市場に水を差したのが経団連の度重なる就職協定の変更である。会社説明会の解禁は昨年と同じ3月からであるが、選考開始が8月から6月に変更となり、学生達が会社訪問等により希望会社を選択する期間が2ヶ月間も短くなってしまった。このよ

うな状況において、優秀な学生を早く囲い込みたいという企業の危機意識により、実質的な採用活動が3月から始まっている。具体的には、3月解禁となった会社訪問の内容が例年と大きく異なっている。昨年までは「取りあえず会社を見てみよう」と手ぶらで参加できた会社説明会が、強制はしないものの、「履歴書」「エントリーシート」といった応募書類の提出者については、「希望すればその場で一次面接を行います」といった類のアナウンスを行う会社が増えている。このため、学

生達は例年よりもかなり早い時期からエンジン全開で就職活動に取り組みざるを得ない。このような学生達を支援するために、就職支援課では、年明けの1月から履歴書添削やエントリーシート添削、模擬面接などの就職相談を行っている。前年比4倍以上の2000件以上の学生が訪れ、課員は嬉しい悲鳴を上げる事態となった。積極的な学生をサポートするために、各種添削のための人員の増強、さらに、3月、4月、5月と3ヶ月連続で500社を超える企業を

招いての合同企業説明会の開催を実施した。その結果は、選考開始が表向きに解禁となる6月に入り大手企業を中心に開始する事になる。重複内定を得る学生が出る一方で、数十社受験をしても内定につながらないケースもある。内定が得られない学生にとっては試験の時である。就職は縁であり最後まであきらめることなく活動を続

けることが重要である。全員が進路を決めて卒業式を迎えられるよう、就職支援課は、いつでもなんでも相談できるプロのスタッフを揃えて支援していく。

5月22日、大学学友会館にて後援会定期総会が開催された。第1号議案「平成27年度事業報告」、第2号議案「平成27年度決算報告・同監査報告」、第3号議案「平成28年度事業計画」、第4号議案「平成28年度予算」、第5号議案「理事・監事の銜衡」は、慎重審議の上、全て承認され、総会は無事終了した。新執行部は次の通り。

- 会長 市川道教(東京)
- 副会長 熱田俊美(京都)
- 総務 大原史子(鹿児島)
- 財務 廣瀬修(神奈川)
- 監事 佐藤清治(山形)
- 加藤仁司(福島)
- 武井實(山梨)
- 町屋英治(東京)
- 徳川喜永(埼玉)
- 菅原昌人(新潟)

総会終了後には学内見学会が実施され、学内の主な施設・設備を職員が案内した。その後の懇親会には本学教職員も参加し、互いに懇親を深めた。

宮代町観光マップ完成 情報工学科が技術提供

マップは宮代町地域連携事業の一環として、共栄大(埼玉県春日部市)と共同制作。「情報スキル×観光ホスピタリティ」研究による新たな地域ブランディングの展開を目指す。本学情報工学科の動画制作およびAR(拡張現実)技術に、共栄大観光ビジネス



歴史遺産からグルメスポットまで、様々な情報を掲載

コースの観光地図制作のノウハウを融合。掲載写真や動画をスマートフォンで読み取り、関連動画が再生される、詳細情報が取得できる。マップは宮代町の進修館などで5月中旬に配布開始。2020年まで継続され、新情報に随時更新される。

女子学生交流会で 学生生活の不安を解消

4月4日、第4回目となる「女子学生交流会」が開催された。在籍人数の少ない女子学生が、男子学生が多い環境下でも、元気に楽しくキャンパスライフを送ることができるよう支援することが目的である。

前日は入学式、翌日からは、フレッシュマンキャンプという忙しいスケジュールにも関わらず、本年度入学した75名の女子学生のほぼ全員と、先輩女子学生35名が参加した。大学側からは竹内学生支援部長をはじめ4名と女性職員10名が出席し、趣旨説明と先輩女子学生の活躍事例、大学生活を送るうえでの注意点を紹介するとともに、新入生への激励の言葉が贈られた。その後は、学科別に分かれた席で昼食を取りながら和やかな談笑の輪が



第2食堂「ピザシアトレビ」にて昼食会

広がった。ある新入生に交流会の感想を聞いたところ「地方から出て来たのでとても不安だったが、この交流会を通じて友達もできたのでとても良かった」と安心した表情で話してくれた。上級生達は学業に関する注意点をクラブ活動の経験談などを披露しながら、後輩の不安を取り除くなどの気配りをしていった。先輩からの的確なアドバイスは新入生にとって、今後のキャンパスライフを豊かにしてくれるものと期待される。

